

イブニングセミナー抄録

「整形外科領域で役立つ超音波検査技術とその実際―運動器編(肩関節・膝関節)―」

石崎 一穂(東京厚生年金病院・中央検査室)

整形外科領域の超音波検査に対する関心が高くなり、診療に取り入れている施設も増加している。今回は、成人の運動器疾患の中で検査頻度の高い、肩と膝関節について解説する。

「関節リウマチにおける超音波検査―関節リウマチ医療が変わってきた!―」

西森美佐子(だいいちリハビリテーション病院)

関節リウマチ(Rheumatoid Arthritis)以下RAは関節破壊を徐々におこす自己免疫疾患の1つで、全国で約70万人の患者がいると推計されている。 <中略> 本稿では、基本的な内容を中心に解説するとともに、現在私たちが行なっている最新の知見も紹介したい。

「胎児心エコー:スクリーニング検査のターニングポイント ―精査へと続く状況―」

辻村久美子(コシ産婦人科医院 超音波検査室)

胎児の心臓は妊娠20週台前半で約2cmと小さく、 <中略> 限られた検査時間内に胎児の心臓を的確に効率よくスクリーニングし、本稿では胎児心臓を観察するために知っておきたいこと、スキルアップにつながるポイントを中心に解説する。

モーニングセミナー抄録

「腹部領域における造影超音波の現状と展望」

西田 睦(北海道大学病院 超音波センター)

2007年1月に第二世代の超音波用造影剤ソナゾイドが世界に先駆けて我が国で認可され、保険適応となりました。 <中略> 本ポケットブックの主旨に則り実際に役立つ造影超音波検査の実践的な内容1)と今後の展望について記載します。

「バスキュラーアクセス管理における超音波検査の有用性―原理・測定方法・評価法について―」

尾上 篤志(恒進会病院腎臓病センター 超音波室)

わが国における透析患者の数は28万人を超え、毎年1万人ずつ増加している。そのほとんどの患者が血液透析に導入されるため、バスキュラーアクセス(以下VA)を <中略> VA超音波検査の基本的な内容についてまとめた。

「バスキュラーアクセスの種類と合併症」

春口 洋昭(飯田橋春口クリニック)

近年バスキュラーアクセス(VA)の管理における超音波検査の有用性が少しずつ認識されるようになってきている。超音波検査を正しく行うには、VAそのものの知識が必要であり、ここではVAの基礎について概説する。

次のページには、書き下ろしの内容があるよ!

ページのフッタには、……「じむきよくちよのひとりごと」が多数

- 超音波技術によって病態を具現化する。これがSonographer哲学であって欲しい。
- 正常例や日々の症例を考察しなさい。どの症例にも教訓になることが宿っている。

よみもの(書き下ろし)

「Tough Patientの画像改善ポイント(腹部領域)」

白石 周一(東海大学医学部附属病院 臨床検査技術科)

ここで言うTough patientとは、超音波画像が得にくい被検者の総称と考えてください。皆さんも『〇〇のため描出不良』と検査結果レポートに記載したことがあると思いますが、この〇〇にあたる部分と考えていただければイメージしやすいかもしれません。・・・・・・・・

「本当にそれでいいの？腹部超音波スクリーニングの技」

村上 和広(エムエスエム)

日頃当たり前のように行っているスクリーニング検査ですが、自分の走査技術について疑問を持ったことはありませんか？ <中略> 本稿ではそんな方々の悩みを解決し、更なるステップアップに繋がるポイントについて、肝臓、膵臓の走査方法を中心に述べてみたいと思います。

「私の心エコー検査法」

遠田 栄一(三井記念病院 検査部)

私が心臓超音波検査に携わって36年が経過しました。当時は、特殊検査であった心エコー検査が、<中略> 温故知新を胸に抱きながら、ご一読頂ければ幸いです。それではお時間の許す限り昔話をご堪能下さい。

私の心エコー検査法」

増田 喜一(国立病院機構 大阪南医療センター 臨床検査部)

このポケットマニュアルのこのページを開き、今まさに「私の心エコー検査法」をご覧になろうとしている会員の皆様、必ず最終ページまで目を通していただけるような内容にしたつもりです。私の永い心エコー検査歴の中で、今までに多くの質問をいただきましたが、その中から特に知っておいてほしい項目をQ&A形式にしましたのでご覧下さい。

「DVT検査の要点, 見落しのない時間短縮のコツ」

神 幸二(NTT東日本札幌病院 臨床検査科)

私が下肢静脈エコーを始めたのが14年前頃で、その頃は専門書も少なく手探り状態で始めました。<中略> 紙面の事情もあり、教科書に載っていない？ 自分流の検査のコツを中心にワンポイントレクチャー的に書かせて頂きますので、基本的な内容や手技、検査の流れなどは専門書等を参考にしてください。

「乳房超音波検査の実際」

佐久間 浩(株式会社ソノグラフィーズ), 白井 秀明(札幌ことに乳腺クリニック)

尾羽根範員(財団法人 住友病院)

乳がん患者の増加にともない注目を集める乳房超音波検査だが、情報量が増加するにつれ解釈や用法に混乱がみられる。本編ではそれらの整理を試みるとともに、新情報としていわゆるガイドラインの現状について述べる。

「身体にやさしい超音波診断装置」

片山多希子(済生会熊本病院), 壬生 明美(川口市立医療センター)

尾羽根範員(財団法人 住友病院)

超音波診断装置の画質や機能面では長足の進歩を遂げている一方、その操作性についてはいかがだろうか。超音波検査に長年従事すると、頸, 肩, 腰など検者の身体に悪影響を及ぼすことが注目されつつあり, ・・・・・・・・

『「けんしん」超音波技師を育てる』

前田 純子(東京海上日動メディカルサービス)

今年も年度はじめをむかえ、新社会人の希望に満ちた顔がみられる時季になった。医療機関や「けんしん」施設の超音波部門にもこれから超音波検査に初めて従事しようとする技師の姿が見られる。新人を育てるためのヒントになればと思いこの小冊子に自身の経験を記す。